
ONEPIECE ~ 終わりになき旅 ~

影様

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONEPIECE〜終わりなき旅〜

【Nコード】

N7676R

【作者名】

影様

【あらすじ】

ウィズダム（オリ主）が麦わらの一味とともに成長をする物語。麦わらと行動をすることで彼は何を学び、何を得るのか。そして、彼に刻まれた隠された秘密とは…。彼がもたらす物とはいったい…。麦わらとウィズダムの終わりなき旅が今始まる。

朝が来た（前書き）

この物語は序章の後に1巻から内容的には進んでいくのでそれを楽しんでもらえればと思っております。また、オリ主目線なので裏側から麦わらを見ていきたいと思います。本作メンバー+1と考えてください。

朝が来た

「うーん、今日もいい天気だ!！」
そういつて男は外に出た。

「なんかいい事が起こりそうな気がするぜ!！」

俺の名はウィズダム。ここ、ココヤシ村に1か月にたどり着いた。
ある目的をもって。。。

「おーい、ウィズダム! やつと船がもらえたぞお!

これで今日から俺は海賊だ!！」

そう、話しかけるこの男こそ

これから数多くの旅を経験することになる麦わらの男・・・

モンキー・D・ルフィである。

この出会いをするきっかけとなった

あの日のことを俺は忘れない・・・。

朝が来た（後書き）

ふう、最初なので短めに書きました。これからどんどん書いていくので感想などよろしくです。

始まりの日（前書き）

今回はオリ主の昔について語ります。

2、3話使ってオリ主の過去について

10話くらいまでは序章編で語りたいと思います。

始まりの日

俺がココヤシ村につく半年ほど前それは起こった。

・・・イーストブル東の海のもみじ村・・・

おれは15年前、この村に生を受けた。

いつものように家族と別れ、山にキノコ狩りに出かけた。
その時だった。

「シイシイッシ！まさか、こんなところに伝説の悪魔の実があるなんてなあ！」

おれはすぐ、木の陰に隠れてその様子を探ってた。

「シイシ棟梁！しかし、この悪魔の実は図鑑には載っていません！
特別種という噂がありますが・・・、この噂が実は・・・」

「どうした？いってみろ。」

「はい、その・・・この実は普通の悪魔の実とは違って人を選ぶよ
うで・・・」

その・・・」

「なんだ！！おれはグチグチした野郎が嫌いなんだよ！！早くいちまえ！」

「はい・・・その・・・この実は2つ目の悪魔の実を食べたもの
のように」

この実にふさわしいと選ばれないと体が消し飛ぶみたいで・・・
しかし、偽物かどうかも食べないとわからないということとで売ることにも売れないという噂があつて・・・」

ガタツ！

「やべっ！」

俺は木の陰から音を出してしまい、逃げようとしたが山賊につかまつてしまった。

そんな中

「おい、面白いこと考えたんだが？」

山賊のかしらみたいなやつがニタニタしながらおれを見つめてくる。

「どうしました？シイシ棟梁？」

「こいつに食わせてみようぜ。偽物なら何も損はねえし、本物でも自分の命をぶつ飛ぶよりはマシだ。

どっかの見世物屋にでも売りつけてやるうぜ！シイシイッシ！」

「そうですね！さすが、シイシ棟梁！かんげきッス！」

こいつらマジか・・・。

おれは悪魔の實の能力なんざ興味はない。

普通にこの村で一生を過ごしたいのに・・・

「オっさとくえー！」

そんなことを考えてると無理やり口に入れられた。

「い、いやだ・・・」

抵抗しようとしたが、2人がかりでやられたせいで食べてしまった・・・。

「ま、不味い！」

むりやりだったが、おれはこいつらにこの変な実を全部食べさせられてしまった。

それからしばらくして・・・

「何も起こらねえな・・・。やっぱりこんなちっぽけな村にあるものなんて偽物か。」

「そのようですね、棟梁。」

「しかたねえ。殺しとけ。」

ちよつとまった！無理やり食わされて死ぬなんてたまったもんじゃねえ。

しかし、そんなことを考えさせる暇もないほどピンチだった。

山賊の一人が俺に銃を向け、引き金を引こうとしていた。

「や、やめてくれ・・・。」

その時だった。

海のほうから海軍が向かってきた。

「山賊のシイシ。懸賞金600万の心なき山賊シイシ！
お前の悪運はここで終わりだ！観念しろ！！」

「ち、海軍か。ちょっとまえに海軍のやつを殺したのがまずかった
みたいだな。。。」

「棟梁！こんなやつほつといて早く逃げましょう！」

「そうだな！シイシッシ！俺の逃げ足をなめるんじゃないやねえ！」

そついいながら山賊たちは逆の海のほうへと逃げて行った。

「た、助かった。偽物だったみたいだし、まあよしとしよう！」

生まれながらの能天気のおれはそのまま村に帰っていつものように
過ごした。

そして、何も起こらないはずだった。

この日の夜までは・・・

始まりの日（後書き）

さて、悪魔の実は偽物なのか本物なのか凶鑑に載っていない特別種を作ってみました。ちよいちト気味ですがそれもうまく使えればと思います。

もう一人の自分（前書き）

この回は転生の話です。この世界の前の記憶を主人公が思い出します。これによりルフィのことを知るので自分の中では1つの起点とかんがえています。

もう一人の自分

その夜、眠ろうとした目を閉じた途端、

「ん！？なんだ！！」

突然意識がとび、別の異空間のような場所に飛ばされ、俺の今までの出来事が回想された。

村の人と仲良くなったあの頃。

初めて話をしたあの頃。

初めて立ったあの頃。

そして、生まれたあの頃。

「なつかしいなあ。」

懐かしさに浸っていたが、この後おれは信じられない回想することになる。

それは俺が生まれる前に回想が始まったとき、

「これでおわりかな？ん？」

そこで回想は終わらず、まだ続いていた。

こことは別の場所でヒロキと名をよばれ、剣道、柔道、銃撃など日々平和ながらも鍛錬をしていた。

「こ、これは。。俺なのか。。」

そして、別の両親に愛されて育ってきた過去。
日本という場所で育ってきた別の俺。

俺はすべてを思い出した。

日本という場所で中学時代剣道・柔道・銃撃と日本一になり、
平和な土地ながらもこの土地で一番を目指し輝いていた。
そして、癌という病にかかり、志半ばで命を落としたことで
未練を残し、もう一度どこの世界でもいいから生きたいと願ったあ
の日。

そう、俺はこの世界を知っていた。

日本という世界では、この世界を漫画として描いていたからだ。
病に倒れるあの日まで暇な時間さえあればこの漫画を読みふけて
いた。

でも、この世界の俺はこのワンピースの世界が現実の世界だと思っ
ていた。

だけど俺はこの漫画の世界にどういうわけか転生したようだ。
記憶が戻ったおれはただただ生きていくことはできなくなった。

あの漫画の主人公モンキー・D・ルフィと知り合い、アイツについ
ていくことで

日本でできなかった己の限界へと到達するんだ。

海賊・山賊・海軍・革命軍。

そんなことに興味はない。

ただ、己の強さを極めるのみ。

もう一人の自分（後書き）

はい、日本人でした。w

死に方どうしようか迷いました。神様やトラックなどの事故は結構多いので普通に癌で死なせました。

この過去の記憶も活かせるようにしていきたいと思います。

悪魔の実(前書き)

もうちょい短くしようと思いましたが、
本編と同じ出発までもう少しかかりそう。
お付き合いください。

悪魔の実

前世の記憶が蘇った俺は、前の記憶から

悪魔の実を鍛え上げればそれに見合った能力が手に入る

と思いつき、この実の能力をできる限り鍛え上げることにした。

この実を調べていくうちに理解したこと、理解できないことができた。

理解できたこと

・この実の名前はトキトキの実。時を自在に操ることのできる悪魔の実

・超人系・自然系・動物系には属さない特別種

・悪魔の実の図鑑にも「伝説ではこの実が存在する」と書かれている

・こんな実は漫画の時にはなかった。

しかし、漫画には俺が本来いるはずもないのだから何かしらの変化が起きてもおかしくはないと感じた

理解できないこと

・なぜおれは日本で死んだのにこの世界で生きているのか

俺以外の死んだ人間もすべてこの世界に来ているのだとしても

この実を食べた俺しか過去の記憶を取り戻せない

はたしてそれはあつていいことなのだろうか。

過去の記憶がないのならば転生する必要があるのか。

まだまだ俺の知らないことがこの世界にはあるみたいだ。
そしてこの実の事も・・・

悪魔の実（後書き）

悪魔の実について書いてみました。

特別種がなぜ存在するのかを少し書いてみました。

まだまだですが、思いつき次第

悪魔の実やこの世界など追加してみようと思います。

能力開発（前書き）

引き続き、悪魔の実際の能力の紹介です。

能力開発

あれから俺は能力とともに体を鍛えなおした。

幸いウイズダムと名付けられ、生を受けてから

体を動かすことが好きで、そのために体をよく鍛えていた。

なので、基礎体力・基礎筋力など基礎はできていたが

いかんせん体の鍛え方がこのころはわかっていなかったようだ。

そこで日本での知識を活かし、体を再度鍛えなおしているところだ。

古武術・柔術で体の動き方をこの体に刻み込み、

剣術は動きは記憶で取り戻したので、ひたすら毎日6時間1秒1振りだ。

そして、銃撃はつかう銃が日本とは違うのでひたすら木に向かって打ちまくっている。

もちろん、トキトキの実の能力のアップも忘れてはいない。

この能力に名前を付けたので紹介しよう！

(いや、いいと言わないでくれよ?)

まず、過去に遡れたのはあの日だけだった。

過去をやり直すことはさすがにできないようだ。

【セレクトイング（吟味）】。

未来を見る能力を使い、さまざまな行動をしそこでベストな選択肢を選ぶ。

まあ、簡単に言うとだれかに銃で撃たれても

少し右に動けば当たらないかもしれない。

その全パターンを確かめる能力だ。

まだまだ無駄な選択肢を選んでしまうことがおおく、
またかなり発動まで時間がかかるので、これを一瞬でできるように
鍛えている。

【ジェネラルズダブル（影武者）】

これは他人の未来・他人と自分の能力差をみる事のできる能力。
こちらはまだまだな出来だし、

他人に未来を見ても面白くなくなるし、いいことはないと感じいた。

知らぬが仏。

日本であった言葉のように知らないほうがいいことも
人生を進むうえでいっぱいあるんだ。

ウイズダムとしてかわいがってくれた両親の未来を見ると
俺が旅立ったあとに病気で亡くなってしまつ。

それまでそばにいたい気持ちはやまやまだが、
旅に出るわくわく、自分の強さを探求できる可能性

この気持ちでわくわくしていたのを気づいていてくれた両親が

「たとえば、私たちの身に何か起ころうと

ウイズダム、お前はお前の道を行け。

それが私たち、家族の喜びになる。」

ウイズダムとして育ててくれた、この世界の親の言葉は
今の俺にとって最高の言葉だった。

この気持ちにこたえるためにも俺は強くなる。

そのためにはアイツが必要だ。

そう、未来の海賊王の器を持つ。

麦わらのルフィ。

ルフィが旅立つあの日と今を比べると8ヶ月ほどある。

ココヤシ村でアイツと仲良くなること、旅に連れてもらってために1か月は早めにつくとして大体半年はここで鍛えられるな。

「よし、俺は強くなる!!!」

ルフィ、ゾロ、ナミ、ウソップ、サンジ、

チョッパー、ロビン、フランキー、ブルック!

お前らとおれは仲間になる!!!」

能力開発（後書き）

名前付けるの難しかったですw

みんなワザとかいろいろかっこいい名前がいいので

悩みましたが、話が止まってしまっていたのでこれにしました。

読んでる方がいれば感想やアイデアなどがあればどんどんおしえて
くれると

ありがとうございます。

旅立ち（前書き）

いよいよ旅立ち編です

感想とか評価もっとほしい。。。

そのためには面白いものを作らないと！！！！
がんばろう！！

旅立ち

・・・半年後・・・

「うし、そろそろ行くか！」

俺は半年の間、己の武術・剣術・銃撃など今できる成長をしてトキトキの実の能力も最初に比べると申し分ないほどに成長できた。

島の船大工に小さな船を作ってもらったので、これでココヤシ村へ向かう。

相変わらず両親の未来は心配だが、

「もつといい男になって私たちを喜ばせてね」

「男ならどーんと胸を張れるような冒険を試してみろ！」

と、両親が言ってくれるので前を向いて進もうと思う。

「じゃあ、いつてきます！もみじ村のみんな元気だなー！」

船着き場から大勢の村人に見送られて俺は旅立った。

「んと、ここからだとのルートが近いかな。

セレクトディング！」

おれはさまざまな経路を実験し、一番早いルートを見つけ出した。だが、少し時間はかかるが、面白いルートを見つけたので

そこを通過してココヤシ村に行くことにした。

しばらく海を進んで、

「ん、そろそろあの船が見えるはず……。

お！いたいた！」

少し奥の島のほうにでかい船が止まっていた。

横向きどくろにハートのマーク、帆にもハート、先端には白鳥の頭。

その船はあの金棒のアルビタ、

のちのレディー・アルビダともよばれる、海賊で女船長だ。

こいつにあって今の実力がどれほどか試しておきたい。

まあ、コビーにもあいたいしな。

だけど、ここでおれが倒すつもりはない。

あくまでルフィたちが倒すやつらはルフィたちに倒してもらおう。

それは漫画の世界の流れを変えないようにするためだ。

もしここでおれが倒してしまえばものがたりの始まりの内容が変わってしまう。

このことでルフィが仲間たちと出会わないのは

この漫画、この世界が好きだった俺は耐えれない。

あくまで補助、そしてまだ見ぬ俺と同じように

原作には登場しない敵がいたとき、俺は全力を尽くす。

まあ、どの程度通用するか試してえけど（笑）

とまあ、こんな話をしているうちにアルビダが
船舶している無人島へたどり着いた。

「さあ、俺の冒険の始まりだ！」

旅立ち（後書き）

なんかいろいろ考えて書いてるとなんかなくなりますね W
ここはこうしよう！ここ裏づけしよう！
とかおもっちゃう。

なので、もうちょい本編開始までかかります W

実戦（前書き）

ちよいとココロヤシ村の経路の間に寄り道です。

おれは後ろのいる海賊を木刀で薙ぎ倒し、船首へと走り出す。

「逃がすんじゃないよ!」

「逃げねえよ。」

俺は船首を背後にする。

「これで後ろから攻撃はされん。

さあ、かかってこいや!」

「マジかよ。(汗)」

「はやく、ぶっ殺しちまいな!」

その言葉に海賊たちは無謀にも襲い掛かる。

「無謀だな。(笑)

天然理心流 剣技 5段突き!」

一斉に襲ってくるといっても前からしか来ない。

また徐々に細くなっている船首は一斉にと言っても5人しか襲えない。

そこを利用し、新撰組 沖田総司の3段突きを改良した5段突きを突く。

本来は襲い掛かってくる敵の喉に向かって突く剣術だが、致命傷をおってもらっても困るので喉以外の急所に向かって突く。

「うお!グオ!ゲエ!ぐお!いてー!」

俺は能力を使わず、襲い掛かってくる敵にしばらくの間起き上がれ

ないように突き、
海賊たちを倒していった。

「だいぶ下つ端はいなくなつたか。」

「あんた！！このアルビダの船を乗っ取りに来たのかい！！」

「ん？んなもんきよーみねえよ。（笑）」

お前たちがいくらのもんか確かめたかっただけだ。」

「そうかいそうかい！！じゃあ、このあたしも倒していくのかい！！」
「？」

「いや、倒すのは俺じゃなくて……。まあいい。相手してやるよ。」

つてか、こいつ実物だとこんなにもブ……。

まあ、いいや（笑）

実戦（後書き）

過去の日本での記憶を思い出したんでせっかくなんで日本の剣術を使いました。

いや、戦闘を文字で書くむずかしさ。

しかも、戦闘系漫画・・・

きびしいーーーーー

女海賊 アルビダ（前書き）

さあ、初のボスとの戦いです。

アニメ・漫画だとすぐ倒されるので

ここでもすぐ倒しますねw

女海賊 アルビダ

「あたしの金棒を受けて助かったもんはいねえんだよ！」

そういつて

大きく堅そうな金棒でアルビダが襲い掛かってきた。

「んー。動きトロイからよけてもいいけど・・・。

どれほどのもんか受けてみるかつ。

天然理心流 八相 石壁！」

おれは木刀を顔の横に持って構え、アルビダの金棒を防ぐ。

「く！すげえパワーだな。女か！？ホントに！」

「あたしをなめるんじゃないよ！！！」

アルビダが力で押し切ろうとする。

「でも、まだまだだなあ。もっと力をうまく使えよ！はっ！！！」

防御の八相の構えをしたまま、一瞬に力をこめ、金棒を薙ぎ払う。

そして、よろめいたアルビダの後ろに回り込み、

「遅いな、まだまだだぞ、アルビダ。」

「あんだ、なにも・・・（会話の途中で後ろから手刀を使い、気絶させる）」

まだまだだなあ。

ゾロならもつと早く斬り倒せて

ルフィならもつと簡単に殴り倒してるんだろうな。

まあ、あいつらもまだまだ成長段階だから能力を使えば俺にも分があるか。

そこに・・・

「あ、あなたは、な、何者ですか!!」

その声の先を見るとコビーがいた。

「おお、コビーか!!」

「え?!なんで僕の名前知ってるんですか?!」

「あー、、あれだよ、あの・・・、そう!さっきアルビダが呼んでたんだ!」

「そうですか。あの、旅をしてるんですか?お強いですね。

僕なんて弱くてこんな船に間違つて乗っちゃったし・・・」

「おう、ちよつと旅の途中だな。お前の話も聞きたいけど

急いでるから先に行くな!」

「あ、あの、今日は何しにこの船へ?」

「うーん、暇つぶし?(笑)」

「(なんて人だ。僕も強くなつたらあの人みたいになれたら海軍になれるかな)」

あの、よければ!よければ僕も連れて行ってくれませんか!」

「(まあそうなるわな)」

わるいな。小さい船だからもう乗れないんだわ。

それにお前は・・・。まあいい。また近いうちどこかであつだろ
う。」

「そうですか。。。わかりました!旅のご無事を祈ってます!」

「いつかまた会いましょう！」

「おう！（）まあすぐあうけどな（笑）（）（）」

よし、暇つぶししたところで

「行くぜ！！ココヤシ村！！

待ってる、ルフィ！」

女海賊 アルビタ（後書き）

さあ、アルビタも倒し、いよいよココヤシ村！
今度こそ行きますww

PV約1400、ユニーク約270人。
うれしいねえ。もっとおもしろくしたいよ！！

ウイズダム（主人公設定） 随時更新あり（前書き）

間をおいて、主人公の整理のため、
プロフィールを書きました。物語が進むにつれ更新していく予定。

ウイズダム（主人公設定） 随時更新あり

名前：ウイズダム（転生前）ヒロキ

年齢：転生前 18歳 15歳

身長：転生前 180cm 200cm

体重：転生前 45kg（癌のせい。本来は70kg）

80kg（70kgだったが、トレーニングで+10kg
増えた）

容姿：転生前 普通。鍛えること優先だった為素材は

まあ良かったが活かしきれなかった

イケメン。村の女の子にも人気があったが、

様々な遊びに夢中だったため、

またも活かしきれてない（笑）

武器：木刀。

（ウイズダムの時の）小さい頃から

森の木でいろいろ作り、器用だったため自作したもの。

簡単に折れないように、拳ほどの太さにしてある。

材木は宝樹アダムを品種解析し、つくられた

宝樹イブ（村の森にある木）でつくられてる。

堅さは劣るものの、業物のほどではない剣ではなければ折れ
はしない

悪魔の実：トキトキの実（特別種） 本来は存在しない伝説の悪魔
の実

【セレクトイング（吟味）】

未来を見る能力を使い、さまざまなパターンの行動を試し、ベストな選択肢を選ぶ。

【ジェネラルズダブル（影武者）】

他人の未来・他人と自分の能力差をみる事のできる能力。

技：

【無刀流儀 むとうりゅうぎ 虎形拳 こけいけん】

拳一点に力を集中させ、剛の限りに振りかざす、振り下ろす拳。

力任せな技なので、当たりにくいが当てることができれば相手に与えるダメージは大きい。

ウイズダム（主人公設定） 随時更新あり（後書き）

このほかにも物語で出てくるオリジナル要素があればくわえたいと
考えています。

どうだったけ？と参考程度に読み返してください。

出逢い(前書き)

ふう、ながくなっただけどやっとルフィと出会います！
あとやっとこの次から漫画と同じスタートです。
ルフィとの出会いを書きました。

出逢い

……東の海^{イストブルー} ココヤシ村……

「ふう、やっとついたぜ！ココヤシ村！

ちよっと寄り道したから遅くなっちまった。

さてと、あいつは、と……。」

あたりを見逃すと、

「こら〜！待て〜、風〜〜〜！！！！

俺の宝を返せ！風！！！」

村の奥から風に向かって文句を言う男が走ってくる。

「なんつー、わかりやすい。(笑)

さて、こんなときにあいつとはなすには……。」

風でおれのほうにむかってくる麦わら帽子を俺は掴んだ。

「はあはあ……。誰かわからないけどありがとな！

帽子返してくれ。」

「これ、おまえのか？ならまず名前を名乗るのが礼儀じゃないか？」

「あ、そっか！ごめん！俺の名前はルフィ、モンキー・D・ルフィ！

海賊王になる男だ！」

「そか、海賊王な。それなら海賊は悪い奴らだからこの帽子は預かっておくわ。」

「ダメだ！それは俺の宝だ！だれにもゆずらねえ！！！」

「そかそか。もしそれでも返さないと言ったら？」

「力づくでもかえしてもらおう！」

「力づくか（笑）。とれるものならとってみな。」

「ほんとはやりたくねえけど、仕方ねえ。」

「ゴムゴムの……」

くくく。こんなにも簡単に誘いに乗るとは。（笑）

まあ、それがルフィらしいと言えはらしいけどな。

そうこうしているうちに、ルフィの手がゴムのように伸び、こちらにねらってくる。

「能力使わなくてもこの角度からだ……」

おれはルフィの腕の角度、伸びた長さからスピード・角度を予測した。

ピストル
「銃！！！」

「あめえよ。」

おれはルフィの拳をよけるとともに、よけた後腕をつかみこちらへと力を込めて引っ張る。

ルフィはその勢いを利用する。

「まだまだ……！！ゴムゴムの……、鎌！」

勢いがついたスピードを利用し、腕を伸ばしおれにそれを当てようとする。

だが……

「まだ、そこがあまい。空中で身動きが取れない。」

そして失敗しても相手はよけると思い込んでるところが甘い。」

おれは腕をのばし当てようとするルフィの腕をかわし、ルフィの体の下に潜り込み、
ルフィの腹に拳を振り上げる。

「無刀流儀 むとうりゅうぎ 虎形拳 こけいけん！」

右こぶしに全神経を集中させ、剛の限りをつくし腕を振り上げる。
命中するとルフィは空に舞い上がり、そして地面にくずれ落ちる。

「くそ、いてえ！ゴムなのにてえ！！！」

ルフィが体をかばいながら、麦わら帽子のために闘志をこちらに向けてくる。

「ルフィ、きいてくれ。」

これからこの広い海を旅するにはおまえより強い奴もいるだろう。

だけれども、それでもお前は海賊王になるという。

海賊王はただ強いだけではたどり着けない。

その器にふさわしいと認められたもののみ、与えられるものだ。

もし、今のお前にその器があると思うならそれは間違いだ。」

「……………（黙って聞いている）」

「ただ、おれはお前ならば海賊王になれると、拳を交えて改めて感じる事ができた。」

まだまだお前は弱いが、俺はお前が強くなるところを見てみたい。
そして、俺ももっと強くなりたい。

.....

ルフィ、お前の夢のたびに俺もつれていってくれないか？（麦わら帽子を返す）

「（笑顔になる）なんかむずかしいことはよくわからないけど、お前いいやつそうだし

仲間が多いほうがいいし、いいぞー！

「そうか、ならお前の夢をサポートさせてもらおう。」

「はっはっは。最初の仲間か！！

そうだ、おめえの名前は??」

「ウイズダムだ。」

「あと、きになってることがあるんだけど.....」

「なんだ、何でも聞いてくれ？」

「おめえ、何歳だ？」

「ん？ああ、15歳だ。」

「.....！！俺より年下じゃねえか！！ww

口調があまりにも大人ぶってるからよ！。

どうみても俺より下なのが気になってなあ.....

そうか、じゃあ弟みたいなもんか！そうか、弟か.....www

「弟ってww。まあすきにしてくれw」

こうして俺はルフィと出会い、旅をすることになった。

出逢い（後書き）

さあ、仲間になりました。これから旅が始まりますが、漫画ではないストーリーも合わせていけたらと思います。

感想などどんどんまっています。

誤字修正もあればおしえてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7676r/>

ONEPIECE ~ 終わりなき旅 ~

2011年4月7日23時28分発行